

雜 報

◎人 事

正五位勳五等 池 上 馨 一
 正五位勳三等 西 川 義 英
 叙從四位
 (八月十五日)

岡山醫科大學教授 稻 田 進
 賜本俸二級俸
 職務俸金千六百九拾圓下賜
 (八月二十七日)

陸軍一等軍醫正 三 宅 幹 夫
 豫備役被仰付
 (八月三十日)

陸軍一等軍醫 脇 田 豊
 陸軍一等軍醫 吉 岡 總 一
 陸軍一等軍醫 菅 田 瀆
 賜一等給

陸軍一等軍醫 古 田 壽 次
 陸軍一等軍醫 三 木 良 定
 賜二等給
 (八月十五日)

從四位勳三等 好 本 節
 從四位勳三等 田 村 於 兔
 叙正四位
 (九月一日)

從三位勳三等 敷 波 重 治 郎
 叙勳二等授瑞寶章
 (九月八日)

岡山醫科大學教授 畑 文 平
 本俸四級俸下賜
 (九月十八日)

○滋野井至孝君 は先般神戸市攝津病院を辭し同市神戸區再度筋町に於て開業せられたり

○岡本好之助君 は岡山醫科大學卒業後東京市大森區森崎町永井病院に勤務し居られしか今般同院を辭し本縣眞庭郡落合町に於て開業せられたり

○沖津 亘君 は豫て朝鮮忠清南道大田面本町に於て開業し居られしか今回滿洲國新京日本橋通に移轉開業せられたり

○本多 稔君 は大阪市東成區東小橋北ノ町に於て開業し居られしか今大阪府中河内郡布施町に移轉開業せられたり

○出射 一郎君 先年陸軍を退き岡山醫科大學に研究中なりし同君は今般大阪府住吉區田邊東之町八丁目に移轉せられたり

○伊丹正雄君 は豫て岡山醫科大學學泉教授及び石山教授に就き研究中なりしか今回同教室を辭し本縣淺口郡玉島町に於て開業せられたり

○芦刈 秀藏君 は今般山口縣柳井町回生病院を辭し本縣淺口郡鴨方町宮本醫院に勤務せられたり

◎學位授與

山内繁雄、松尾久朗、兼松徳次郎の3君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしか去る7月17日の教授會を通過し本月1日醫學博士の學位を授與せられたり其の主論文及び參考論文は左の如し

山 内 繁 雄 君

主 論 文

「エチールアポヒニン」ノ藥理學的的作用ニ就テ

其 1. 一般作用毒性及び血壓並ニ呼吸ニ及ボス影響 (日本藥物學雜誌第 17 卷第 3 號ニ

發表ス)

- 其 2. 體溫, 血糖並=血液凝固=及ボス影響
=就テ (日本藥物學雜誌第 17 卷第 3 號=
發表ス)
- 其 3. 腸管, 子宮, 血管並=心臟=對スル作
用=就テ (日本藥物學雜誌第 17 卷第 3 號
=發表ス)

參考論文

- 其 1. 「ヨヒンピン」「ヒニーン」「シンコニン」
及ビ「エルゴタミン」ノ麻醉助長作用=就テ
(日本藥物學雜誌第 16 卷第 3 號=發表ス)
- 其 2. 「モルフィン」及ビ抱水「クロラル」ノ血
糖作用=及ボス「ヨヒンピン」ノ影響 (追
テ日本藥物學雜誌=發表ノ豫定)
- 其 3. 新芳香性「グアニジン」誘導體ノ蛙ニ於ケ
ル麻痺作用並=骨骼筋=對スル作用比較研
究 (追テ本誌=發表ノ豫定)
- 其 4. 「アドレナロン」ノ喘息患者ニ對スル臨牀
の效果 (本誌第 46 年第 4 號=發表セリ)
- 其 5. 陳舊臍帶血ノ血液型=就テ (犯罪學雜
誌第 8 卷第 4 號=發表セリ)
- 其 6. 愛媛縣(東豫地方)人ノ血液型並=其ノ人
種係數=就テ (犯罪學雜誌第 7 卷第 2 號
=發表セリ)

松 尾 久 朗 君

主 論 文

神經細胞ゴルヂー氏内網=關スル研究

- 其 1. 白鼠及ビ猫ノ坐骨神經切斷後ニ於ケル
脊髓神經節細胞内ゴルヂー氏内網ノ變化=
就テ(解剖學雜誌第 4 卷第 7 號=發表セリ)
- 其 2. 種々ナル藥物中毒ノ神經細胞殊ニ其ノ
ゴルヂー氏内網=及ボス影響=就テ (「フ
オリア. アナトミカ. ヤボニカ」第 12 卷第
2 號=發表セリ)

- 其 3. 白鼠ノ坐骨神經切斷後ニ於ケル脊髓神
經節細胞内ゴルヂー氏内網ノ變化=就テ
(日本醫學輯報, 解剖篇第 3 卷第 3 號=發表
セリ)

參考論文

1. 鶏副腎皮質及ビ髓質量ノ性質相違=就テ
(「フオリア. アナトミカ. ヤボニカ」第 11
卷第 2 號=發表セリ)
2. 去勢ノコーペル氏腺=及ボス影響及ビ舉丸
「ホルモン」ニ對スルコーペル氏腺ノ反應
(日本醫學輯報, 解剖篇第 4 卷第 3 號=發表
セリ)
3. アウエルバツハ氏神經叢知見補遺 (日本醫
學輯報, 解剖篇第 4 卷第 3 號=發表セリ)
4. 唾液腺ノゴルヂー氏内網=就テ (日本醫
學輯報, 解剖篇第 4 卷第 2 號=發表セリ)
5. 腸塞扶斯ノ 2 異型例=就テ (日本內科學會
雜誌, 大正 12 年 9 及 10 月號=發表セリ)

兼 松 德 次 郎 君

主 論 文

- 上皮小體ノ「カルテウム」新陳代謝=及ボス影響
=就テ (本誌第 44 年第 12 號=發表セリ)

參考論文

- 其 1. 同種上皮小體移植或ハ異種上皮小體「エ
キス」注射ニヨル該「ホルモン」過剩状態ト
同時ニ鹽化「カルテウム」經口の投與ガ骨折
治癒現象=及ボス影響 (追テ本誌=發表
ノ豫定)
- 其 2. 頭部外傷ノ統計的觀察 (追テ本誌=發
表ノ豫定)
- 其 3. 顔面有莖皮膚辨移植ノ治驗 附. 植皮=
就テ (本誌第 45 年第 9 號=發表セリ)
- 其 4. リツトル氏病ノ手術的治驗 (東京醫事
新誌第 2717 號=發表セリ)

其 5. 興味アル上行結腸癌腫例 (東京醫事新誌第 2742 號ニ發表セリ)

其 6. 慢性單純症性顎下腺腫ニ就テ (「グレンツゲビート」第 5 年第 1 號ニ發表セリ)

~~~~~

◎日本赤十字社支部岡山病院

同病院は豫て岡山市内山下に建築し内科、外科、産婦人科の 3 科を設置し診療に従事し居りしか昨年より在來の南手をトし宏壯なる建築に取掛り居りしか今般愈完成し 10 月中旬より診療を開始す

る筈なり其の職員は左の如く決定したり

名譽院長 (兼任)

岡山醫科大學教授 田 中 文 男

副院長 小 林 孫 兵 衛

内科醫長 小 林 孫 兵 衛

外科醫長 佐 藤 政 夫

産婦人科醫長 齋 藤 治

小兒科醫長 武 田 縫 次

眼科醫長 松 尾 義 雄

耳鼻咽喉科醫長 西 村 伊 勢 松